

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
栄養教育実習事前事後指導 Pre/Post-Guidance and Teaching Practice		1年・2年	通年	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	演習	選択	(教職課程必修：栄養教諭2種免許)	栄養士フィールド教職課程履修者限定
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
栄養教諭論、栄養教育実習				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
栄養士資格取得に必要な科目ならびに栄養教諭2種免許取得に必要な科目。				
担当者に関する情報				
氏名		研究室の場所	オフィスアワー	電話番号・メールアドレス
(主) 駒場啓子 野中春奈 藤田 睦		福祉棟研究室	月・火・水・木曜日 9:00～16:00 (授業時間を除く)	授業中に指示します
授業の概要				
教育実習に臨むにあたって、栄養教諭として必要な教職に関する知識・技術の習得、および食と栄養の専門家としての基本的事項の理解と技術的事項を再確認する。また、栄養教育実習についての理解を深め、実習の目的や内容に習熟するとともに、指導案や実習日誌の書き方について学ぶ。実習終了後には、全体反省会や個別指導を通じて実習の成果を検証するとともにこれからの課題を確かめる。				
授業の目標				
①教育実習の内容についての理解を深め、その実践力を培うことができるようにすると同時に、自己の課題を見つけられるようにする。 ②教育実習の際の児童・生徒指導をできるようにすると同時に、自己の課題を見つけられるようにする。 ③教育実習を反省して、自己の課題を見つけられるようにする。				
授業の方法				
講義を交えた演習を中心とする。学生自らが課題をもち、その課題に向かって取り組んでいく。学生の疑問に対し、随時対応した授業内容としていく。				
学習の成果(学習成果)				
①教育実習(学習指導と児童・生徒指導の準備)の準備をすることができる。 ②教育実習を反省して、課題に対し改善をすることができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	〈事前指導〉 ガイダンス (担当 駒場)			
第2回目	1. 教職の専門性・教育実習の意義 (担当 駒場)			
第3回目	2. 教育実習の形態・方法・内容 3. 問題の理解と指導 (担当 駒場)			
第4回目	4. 児童・生徒の心理と指導 5. 教育の評価 (担当 駒場) *レポート①「教育実習に臨んで」			
第5回目	6. 食に関する指導の実際 (担当 藤田)			
第6回目	7. 教育実習上の留意点(2年次の指導) (担当 野中)			

第7回目	8. 教育課程の編成、栄養教育の編成と指導計画 (担当 駒場)
第8回目	9. 指導案の作成・模擬指導 1 (担当 駒場、野中)
第9回目	10. 指導案の作成・模擬授業 2 (担当 駒場、野中)
第10回目	11. 食育の現状と課題 (担当 駒場)
第11回目	12. 教育実習直前指導① (実習の心構え) (担当 駒場)
第12回目	13. 教育実習直前指導② (実習準備) (担当 駒場・野中・藤田)
第13回目	〈事後指導〉 実習のまとめについて (担当 駒場) *レポート②「教育実習で学んだこと」
第14回目	1. 実習の感想・意見発表 (担当 駒場)
第15回目	2. 実習の反省と今後の研究課題 (担当 駒場)

成績評価の方法と基準

評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	20%	授業で使われる教材を準備して臨んでいる。出された課題を準備して授業に臨んでいる。授業に集中し、必要なことはきちんとノートにとる。不明な点があれば積極的に質問する。(詳細はガイダンス時に説明する。)
レポート	40%	第4回目と第13回目にレポートを課す。提出は次回の授業日。評価基準Sのレポートは、内容構成がしっかりしており、熟考された意見が述べられていること。(詳細はガイダンス時に説明する。)
調査報告書		
小テスト		
試験		
発表内容 (態度含む)	40%	誰もが聞き取れるように、明瞭に大きな声で発表する。(詳細はガイダンス時に説明する。)
その他		

教科書と参考図書

「教育実習の手引き」佐野日本大学短期大学 必要に応じて随時授業内にて指示。

履修上の留意点・ルール

目的意識をもって、意欲的、積極的に授業に臨むこと。